

自己評価報告書

平成23年 4月22日現在

機関番号：33917

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2012

課題番号：20520600

研究課題名(和文) 台湾先住民と「帝国」日本
— 植民地帝国形成期から崩壊期にかけての通史的考察 —

研究課題名(英文) Taiwanese aborigines and imperial state of Japan

研究代表者

松田京子 (MITSUDA KYOKO)

南山大学・人文学部・准教授

研究者番号：20283707

研究分野：日本近現代史 文化交流史

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：台湾先住民 表象 植民地主義 人種主義 五箇年計画理蕃事業

1. 研究計画の概要

本研究は、植民地台湾、中でも植民地社会において圧倒的なマイノリティであった台湾先住民に焦点をあてて、近代日本の植民地統治のあり方の推移と、それが植民地社会に与えた影響および日本「内地」の特に社会意識のあり方に与えた影響を、日本「帝国」の形成期から崩壊期（植民地の側からみれば脱植民地期）まで、つまり19世紀末から1950年代というタイムスパンの中で、考察することを目的とする。

2. 研究の進捗状況

(1) 植民地台湾での先住民政策史において第1期とされる1895年から1914年に焦点をあて、当該期において、先住民社会に最大の影響を与えた政策である「五箇年計画理蕃事業」について考察し、その政策が強固な人種主義思想を背景として展開された点を明らかにした。なおこの研究成果については歴史学研究会・大会で報告するとともに論文として公刊した。

(2) 台湾先住民に対する大規模な「討伐」従化作戦である「五箇年事業理蕃計画」が台湾で実施されていた時期に、日本「内地」で台湾先住民がどのような形で表象され意味付けられていくのかを、拓殖博覧会（1912年に東京で開催）に焦点をあて考察した。そこから、一面では台湾先住民を「脅威」として描きながらも、最終的には「文明」による「教化」という文脈で把握しようとしたのが当該期の台湾先住民表象の特徴であり、そのような表象行為に人類学的な知見が大きな影響を与えたことを明らかにした。なお、この成

果は論文として公刊した。

(3) 1920年代後半から1930年代にかけて植民地台湾でも盛んになっていく「観光」という現象の中で、台湾先住民が「観光資源」として位置づけられていく過程とその特徴を、特に台湾における国立公園設置の動向との関連で考察した。そこから台湾先住民の歌や舞踊、手工芸品等が「原始芸術」として再評価されていく点や、台湾先住民の居住地であったタロコ溪谷一帯が植民地統治下で「観光地」として位置づけられ、さらに現在でも様々な「記憶」が考察する「場」であることを明らかにした。なおこの研究成果は、日本国内での研究会や国際ワークショップで報告した。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

植民地台湾での先住民政策史において第1期とされる時期に関しては、設定した課題の考察をほぼ完了している。第2期についても、資料の収集およびその分析を95%近く達成できており、その結果については現在、論文執筆をすすめている。また総力戦期については、予定している資料収集の約50%以上を2010年度末までに達成できているため、現時点で当初の研究計画を、おおむね順調に進めることができていると考える。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 2011年度は、残された課題について、

台湾での資料収集を集中的に行うとともに資料分析をすすめていく。当初の計画では、1930年に起きた「霧社事件」の考察を先に進め、その後に総力戦体制期の考察に移る予定であったが、現時点では総力戦体制期の資料収集が先行しているため、総力戦体制期に関する考察結果を論文としてまとめるとともに、2011年度は特に「霧社事件」に関する資料収集とその分析を集中的に行う。その際、「霧社事件」が発生した台湾・霧社とその周辺地域でのフィールドワークも実施したいと考えている。さらに1945年以降の台湾先住民社会の変容に関する資料収集も行う予定である。

(2)そして本研究の最終年度である2012年度は、「霧社事件」および1945年以降の台湾先住民社会の変容に関する考察を個別論文として公刊するとともに、本研究の最終目標である植民地統治下の台湾先住民に関する通史的考察をまとめ、学会等で発表し議論を深めるとともに、著書として公刊するための準備をすすめていく。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ①松田京子、人間の「展示」と植民地表象－1912年拓殖博覧会を中心に－、南山大学人類学博物館オープンリサーチセンター研究報告、第1冊、167-182頁、2011年、査読無し
- ②松田京子、植民地統治下の台湾原住民をめぐる「分類」の思考と統治実践、歴史学研究、第846号、99-107頁、2008年、査読無し

[学会発表] (計3件)

- ①松田京子、「風景」の意味と記憶－台湾原住民と国立公園－、国際ワークショップ「現代中国の記憶の場」、2010年8月13日、南京大学
- ②松田京子、「帝国」の拡大と台湾国立公園－1930年代の台湾における「山地」と台湾原住民－、空間形成研究会、2009年12月14日、立命館大学
- ③松田京子、植民地統治下の台湾原住民をめぐる「分類」の思考と統治実践、歴史学研究会、2008年5月18日、早稲田大学